

図書館においてある本の中から
おすすめのものをおピックアップ。
バラエティに富んだ本を紹介します。

365日、おいしい手づくり
「魔法のびん詰め」

こつら みや 著



時間があるときに作っておきたい保存食。そんな保存食のレシピが満載です。

町立 鷹巣図書館

TEL0996-86-1111

町立 指江図書館

TEL0996-88-6500



さっぱり味の小鉢からがっつり肉メニューまで盛りだくさんの品を紹介しています。

The おつまみ

オレンジページ 著

Pick Up publication

長島 文芸

Nagashima Bungai
ながしまぶんげい

明神俳句会

秋祭ソースの焦げし匂ひ満ち	竹内 功
田の神の笠の高さに曼珠沙華	淵脇 護
秋彼岸陽だまり淡き奥座敷	関 佳代美
日は西に今日をたたみ日照草	筑前 初市
照るほどに松葉ぼたんの濃かりけり	二階堂妙子
ご詠歌の澄み渡る声秋彼岸	大堂 早苗
夫の忌や群がりて咲く彼岸花	山寄加代子
秋彼岸ねはんの像も眠たげに	中橋 藤七
あぜ道に葉見ず花見ず彼岸花	二階堂恵子
熟れそめし稲のそよぎや遠汽笛	迫口 君代
潮焼けの顔が並んで秋祭り	大堂 正弘

長島短歌会

土産買ふフレンドパークを行き来する親子は探し	岩下 ち江	
探されながら	磯を行く道の辺に咲く石路の花西日を受けて黄金	岩下 房代
色なす	右廻りに生簀を泳ぐ鯛の群導くは誰か列を乱さず	櫻平 頼子
荒萱を包丁葉つばと泣きし孫稻刈る畦に手を切り	米尾 和子	
たれば	若き日に足とられつつ苗植えし田は今畑に諸堀り	坂之下典子
てをり	川の辺に芙蓉の花は数多咲き昇る朝日に露光りを	中山タマエ
り	潟浦の岩場近くに小舟来て烏賊を釣るらし糸垂らしをり	濱田美代子
夕光の淡き庭木に細りゆく蝸は終の命を鳴くか	濱畑 松枝	

創生短歌会

目覚むればすでに働く妻がいて厨房の鍋白き湯気	竹之内重信	
吐く	ささやかな花を咲かすと言う事もなくて七十の坂	宮元 司
を登りぬ	老いの証しと我思うなり日日の妻への言葉角とれ	村上 義彦
て来て	蕎麦の花咲き揃いたる野の畑を眺め歩けば旅に出	大塚 洋子
でたし	鯛おろす為に昨日研ぎおきし出刃庖丁の切れ味う	山下 学
れし	あなたには娘がない私には父母がないそんな	石原百合子
友あり	追いかけてゆく白雲の前足がなかなか前の雲に届	野村 益信
かず		

一般作品

「短歌」

年取て思い出すなど人生をやる気有てもどうにも	町田 末則	
ならぬ	黒の瀬戸渡る釣り舟もどかしく茜の空にカモメ舞	天地 雪舞
いおる	雪溪は生命隠し光浴び遅しく咲く花ばなたちよ	中飯屋辰子
電話鳴る川中同期知覧とな時世の無常涙し語る	鶯出 成人	

「俳句」

腹みちてホッとペン取る晩秋や	宗方 清明
----------------	-------

潮満ちて岩に這ひ出づ黒蜷を波に濡れつつ素早く	林 ヒロ	
採りぬ	痛みたる手首のつぼを押さへしも押しをる片手も	本田 幸子
力鈍りて	庭先に百年過ぎる犬槿の空見へぬまで青葉繁れる	松元 睦子
づく	郁子かずら桜の枝に絡みつき秋の日差しに仄か色	吉田 映子
づく	創立百四十年鷹巣小の校庭に緑ゆたけく梅檀たち	市尾 操